



### 和蠟燭の由来

仏事などに欠かせぬ蠟燭。日本で最初に登場したのは奈良時代です。当時の蠟燭は中国から輸入された蜜蠟燭と考えられています。仏教の伝来とともにあわせて伝来しました。平安時代になり、蜜蠟燭に代わって松脂蠟燭の製造が始まり、その後、はぜの蠟や漆の蠟などを使ったものに変わり、江戸時代にはさらに松ヤニを混ぜて堅くするよううにしました。和蠟燭が上が太

大きい百号はそれぞれ四十四号、十五、八号、九、五号となつています。規格外の特注品もあります。伏木勝興寺の御満座法会では長さ一、八号もの大蠟燭が灯されます。

### 和蠟燭の色と用途

蠟燭の色には朱(赤)・金・銀・白の四色があります。色の使い分けは、朱(赤)は法事(年忌法要)・祥月命日・お盆・春や秋のお彼岸の時に灯します。金は仏前結婚式や落慶法要のお祝いの時に灯します。銀は通夜・葬儀・中陰の時に灯します。本来仏教においては白は使えないのですが、朱・金・銀等が準備できない時の代替品として白を用いることが一般的になつてしまいました。なお色の使い分けは宗派によつて異なることもあります。

### 代表的な和蠟燭産地

近江(滋賀県 伝統的工芸品)、越前(福井県指定郷土工芸品)、七尾、三州岡崎、越後、会津絵蠟燭(福島県伝統的工芸品)、庄内絵蠟燭、京都絵蠟燭



### 和蠟燭のイベント

飛騨古川に「三寺まいり」という二百年以上前から続く伝統行事があります。毎年一月十五日に三つのお寺をお参りするのですが、各寺では高さ八十号もある巨大和蠟



燭が灯されます。「三寺まいり」は親鸞上人の遺徳を偲ぶ行事だそうです。若い男女の「縁結びの行事」でもあり、参拝の男女は小さい蠟燭を灯して祈ります。

白い蠟燭は願いをこめて、赤いろうそくは願いがかなったら灯すそうです。

### 講演を聴き軽体操で汗流す

#### 市老連女性リーダー研修会

市老連主催の女性リーダー研修会が七月六日、柳瀬の西部体育館で開かれました。各地区老人クラブから百五人の女性会員が参加、西田康弘講師の指導でゲーム感覚の軽体操で汗を流しました。



その後、南砺市在住で

ネイティブトラスト会長の得能康生さんのお話「義仲と巴御前」を聞きました。得能さんは「義仲と巴勇士を讃える会」の全国副会長の肩書きを持つておられ、義仲と巴ゆかりの地を網羅した大河ドラマを実現すべく、富山県も巻き込んでNHKに働きかけているそうです。光寿会からは林祥子さん、林時子さんの二人が参加されました。

#### 市民体育大会G・Gで優勝

林文字さんらの般若女子チーム

市民体育大会のグラウンド・ゴルフが七月三日庄川河川敷グラウンドで開催され、一般女子の部で林文字さん(善導)ら六人で編成した般若チームが見事優勝を果たしました。般若地区の女子はこの優勝で得点を稼ぎ、油田、林、出町、鷹栖に次いで女子総合五位に入賞しました。

くなつているのは、裸で使うより提灯などに入れて使うが多かったので、蠟が減つても炎の高さが変わりにくいようにするための江戸時代の職人の工夫です。明治以降の西洋ろうそくの輸入により、和蠟燭は次第に減つていきます。

### 和蠟燭のサイズ

和蠟燭は一号から百号まであります。一番小さい一号は長さ七、一号、上部の太さ一、三



の部下、太さ一、です。また、一番



### 季節のうた 夏休み椅子が背負いしランドセル

林 香月子



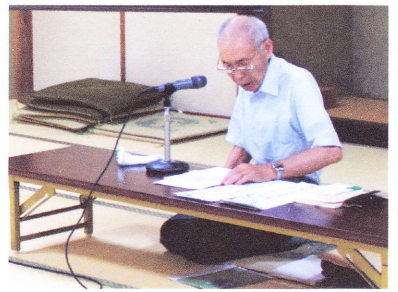
# らんじょ浮世亭だより

いきいきふれあいサロン「らんじょ浮世亭」もスタート以来6年目に入り、7月20日の浮世亭は数えて第62回目となりました。今回はこの間

欠かさず参加して下さっている三門明外二さんのお話をたっぷりお聞きしました。

三門明さんは日野原重明さんと曾野綾子さんの著書を読み、その中から感銘を受けた部分を自分の手で書き写したのものや、何気ない日常を巧みに切り取った自作の川柳などを披露しながら、日頃考えていることを心を込めて語って下さいました。川柳「待合室 患者同士が 診察し」「分からない ことは老化と 医者は言う」などは、私たちが病院を訪れた際しばしば感ずることで、さりげない言葉で人情の機微を巧みに表わす感性の鋭さに感じ入りました。

午後は仏説阿彌陀經の読誦と仏説観無量壽經の書写第五回日、韋提希夫人(いだいけふにん)が釈尊の前にひれ伏して、我が身の不幸を嘆き、どうか私を悩みや苦しみの無い世界に生まれ変わらせてくださいと懇願する場面を書写しました。



## 次回は8月24日

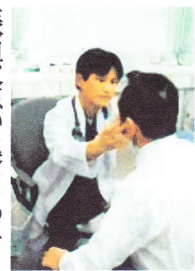
お盆との関係でいつもの第3水曜日ではなく、1週

遅れの 第4水曜日となります のでご注意ください。

大画面ビデオシアターで、お盆にちなみ観無量壽經の世界をアニメドラマ化した「王舎城の悲劇」を上映します。親殺し子殺しという現代にも通ずる地獄の苦しみから、いかにすれば抜け出すことが出来るのか。その問いに対する釈尊の答えが、分かりやすく描かれています。ぜひご覧ください。



## 高齢化著しい庄東の医療を支える 「ものがたり診療所庄東」開設



頼成と権正寺境にオープン。昨年春に般若地区の診療所が閉鎖し、住民の間に身近な診療所をとの要望が高まりました。そこで自治

振興会が集まってつくる「庄東振興協議会」(村岡修一会長)が、市内で二つの診療所を開き、訪問診療も行う医療法人ナラティブホーム(砺波市山王町、佐藤伸彦理事長)に働き掛け、このほど開所にこぎ着けたものです。この春



砺波総合病院を退職された同法人の医師、八木清貴さん(四十二歳)が所長を務め、佐藤理事長と共に診療に当たられます。庄東地区の人口は約五千三百人。高齢化率は三割を超えます。開所式では佐藤理事長が「身近なかかりつけ医として役立ちたい。日本一の地域医療をつかっていきたい」と抱負を述べられました。地区住民としてはたいへんありがたいことです。

なお、診療時間は毎週火曜、金曜の午後一時半から同四時までです。(診療の写真は北日本新聞より)

## 自転車事故絶滅目指して

般老連が講習会



高齢者の自転車による事故が少なくなることから、般若老人クラブ連合会が、七月二十五日、改善センターにおいて自転車の安全な乗り方講習会

を開きました。会員約二十名が参加、おまわりさんの模範演技や安全指導員の助言を得ながら、安全な乗り方を目指して汗を流しました。



## カンナエタへ行こう

夏を強烈に印象づける花カンナ。チューリップが咲き終わった後は、一万株のカンナがチューリップ公園を埋め尽くします。一万株のカンナで作った大迷路やクイズラリー・スタンプラリーなど楽しいイベント盛り沢山。八月一日(月曜日)から九月六日(火曜日)まで。二十日(土曜日)五時からカンナ納涼祭、いろいろなおイベントがあります。

長く淀んだ水底には濁が溜まります。どんな政権も長く続けばマンネリに陥り利権がはびこり腐敗します。そんな閉塞状況から抜け出せるかもしれないとの期待を込めて、国民は民主党に政権を託しました。

## いかるぎ 木 鳩

東日本大震災とそれに伴う原発事故という不測の事態に遭遇したとはいえ、昨今の民主党政権の迷走ぶりはあまりにも見事にその期待を裏切ってくれました。花火のように景気よく打ち上げた目玉政策はほとんどが中途半端なままで立ち往生、八ッ場ダムも、子ども手当も、高速道路無料化も、後期高齢者医療制度も、社会保障と税の一体化も、何一つ先が見えないまま、政治家たちはひたすら菅おろしに躍起になっていっているようにしか見えません。

災害にもあわず日々平穏に暮らしている私たちが、さえ、いらだちを押さえきれない今の政治の有様を、東日本の被災者の方々はいったいどんな思いで見ているのでしょうか。未曾有の国難に直面している今、国民に明日への希望を抱かせる優れたリーダーが現れることを切望したいものです。

## 8月行事予定

27日	定例役員会	一般改善七	若改善	らんじょ	旧神明
24日	掃除奉仕	浮世亭	例祭		